

# 2010年度第1四半期連結業績のお知らせ

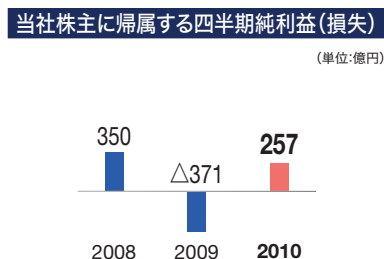
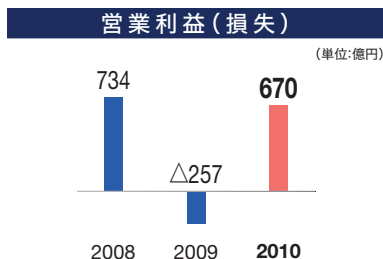
P1 > 業績ハイライト P4 > セグメント変更について P5 > ビジネス別営業の概況

## 業績ハイライト

売上高及び営業収入	1兆6,610億円 (+3.8%)
営業利益	670億円 ( — )
税引前利益	789億円 ( — )
当社株主に帰属する四半期純利益	257億円 ( — )

\* ( — ) は前年同期比

- 営業損益は、前年同期の損失から大幅に改善し、当四半期は670億円の利益を計上
- コンシューマー・プロフェッショナル&デバイス分野及びネットワークプロダクツ&サービス分野が営業損益改善に大きく寄与
- 当社株主に帰属する四半期純損益も、前年同期の損失から黒字転換し、当四半期は257億円の利益を計上



## 主要連結財務データ

	2008年度 第1四半期 億円	2009年度 第1四半期 億円	2010年度 第1四半期 億円
売上高及び営業収入	19,790	15,999	16,610
営業利益(損失)	734	Δ257	670
税引前利益(損失)	629	Δ329	789
当社株主に帰属する四半期純利益(損失)	350	Δ371	257
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益(損失) (円)	34.86	Δ36.96	25.65
設備投資額	777	573	503
研究開発費	1,243	998	991
総資産	127,928	123,665	127,415
純資産	38,633	32,445	32,050
1株当たり純資産(円)	3,577.00	2,958.91	2,866.98

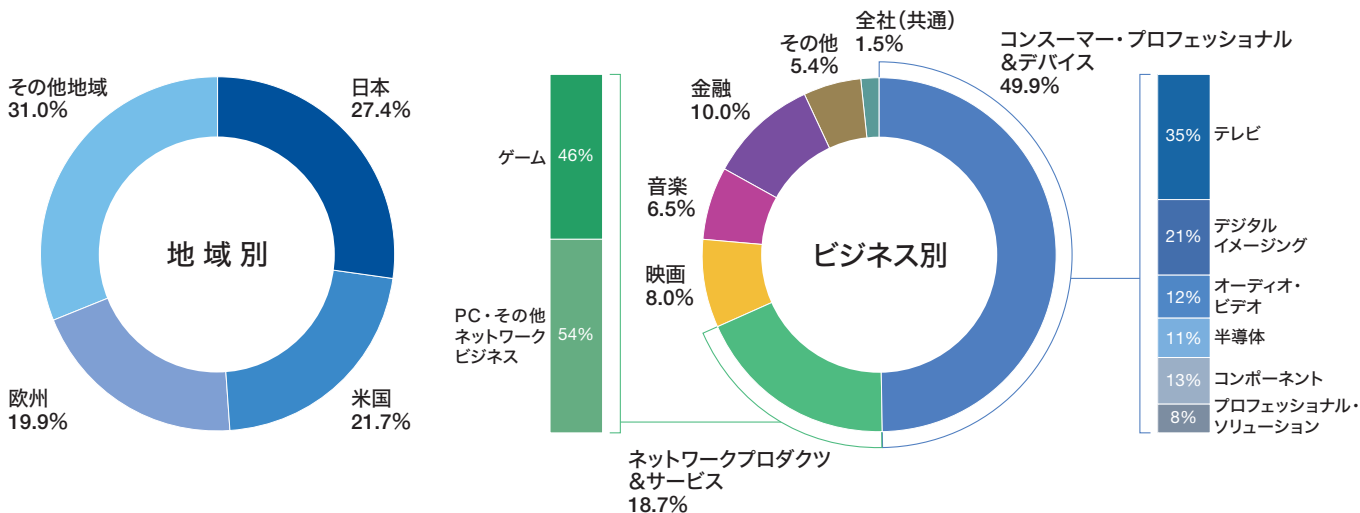
(注1) ソニーは、持分法による投資損益を営業利益(損失)の一部として表示しています。

(注2) ソニーは、2009年4月1日から、連結財務諸表における非支配持分に関する会計基準にしたがい、表示及び開示に関してこの基準を適用しました。これにより、従来、連結貸借対照表上の負債の部と資本の部の中間に独立の科目として表示していた少数株主持分を、非支配持分として連結貸借対照表上の資本の部に含めて表示しています。また、連結損益計算書上の四半期純利益(損失)は、非支配持分に帰属する四半期純利益(損失)を含めて表示しています。この基準の表示に関する規定は遡及的に適用され、過年度の連結財務諸表を組替え再表示しています。

(注3) 純資産額は米国会計原則にもとづく資本合計を使用しています。

(注4) 1株当たり純資産額は、当社株主に帰属する資本合計を用いて算出しています。

## 売上高構成比



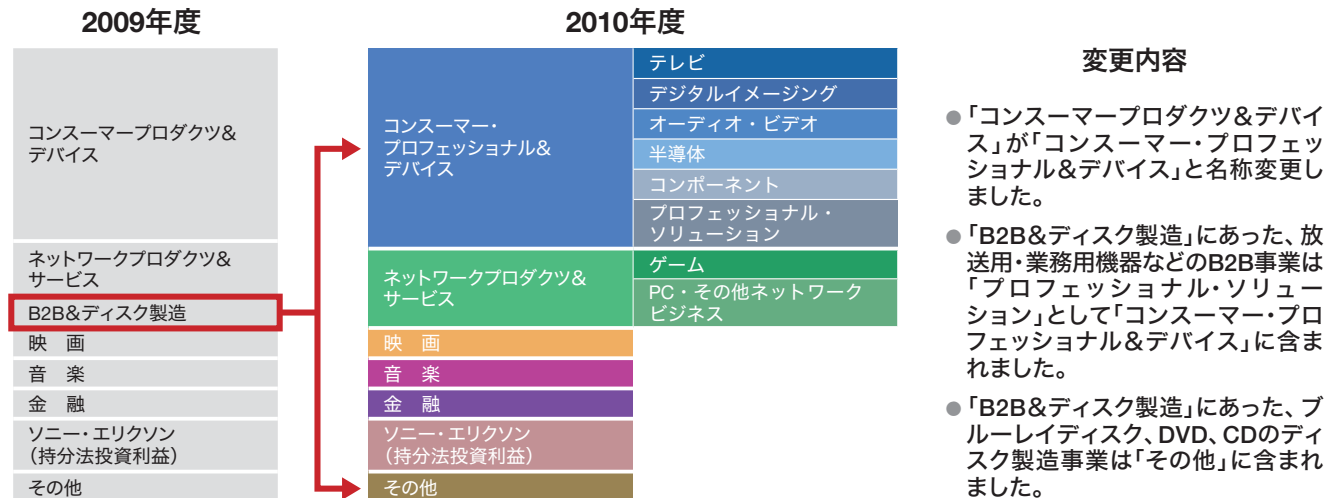
(注1) 地域別及びビジネス別の売上高構成比は、外部顧客に対する売上高及び営業収入にもとづいて算出したものです。

(注2) 地域別の売上高構成比は、顧客の所在地別に表示されています。

3

## セグメント変更について

ソニーは、2010年4月1日付の組織変更にもとない、2010年度第1四半期より、主にB2B&ディスク製造分野を従来構成していた事業を再編し、業績報告におけるビジネスセグメント区分の変更を行いました。この変更にもとない、2009年度第1四半期の実績を修正再表示しています。



4

## ビジネス別営業の概況

以下の説明における各分野の売上高及び営業収入(売上高)はセグメント間取引消去前のものであり、また各分野の営業損益はセグメント間取引消去前のもので配賦不能費用は含まれていません。

### 売上高

	2009年度	2010年度	増減率
	第1四半期	第1四半期	
	億円	億円	%
■ コンシューマー・プロフェッショナル&デバイス	8,312	8,895	+7.0
■ ネットワークプロダクツ&サービス	2,461	3,259	+32.4
■ 映画	1,700	1,321	△22.3
■ 音楽	1,088	1,103	+1.3
■ 金融	2,276	1,690	△25.7
■ その他	999	1,068	+6.9
■ 全社(共通)及びセグメント間取引消去	△837	△725	—
■ 連結	15,999	16,610	+3.8

### 営業利益(損失)

	2009年度	2010年度	増減率
	第1四半期	第1四半期	
	億円	億円	%
■ コンシューマー・プロフェッショナル&デバイス	△89	501	—
■ ネットワークプロダクツ&サービス	△367	△38	—
■ 映画	18	29	+58.2
■ 音楽	54	75	+39.4
■ 金融	482	300	△37.8
■ ソニー・エリクソンの持分法による投資利益(損失)	△145	6	—
■ その他	△46	△39	—
■ 全社(共通)及びセグメント間取引消去	△164	△163	—
■ 連結	△257	670	—

### 売上高(8,895億円) 前年同期比7.0%の増加

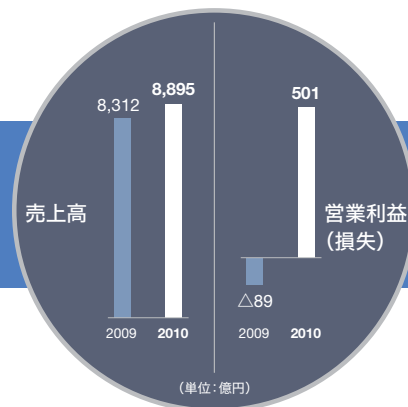
- 外部顧客に対する売上は前年同期比8.9%の増収
- 主に、液晶テレビの販売台数の増加などにより、分野全体で増収

### コンシューマー・プロフェッショナル&デバイス分野

テレビ事業、デジタルイメージング事業、オーディオ・ビデオ事業、半導体事業、コンポーネント事業、プロフェッショナル・ソリューション事業などで構成されています。

### 営業利益(501億円) 前年同期比590億円の改善

- 売上の増加などにもなう販売費・一般管理費の増加、為替の悪影響があったものの、売上原価率の改善、増収による売上総利益の増加、構造改革費用の減少などにより損益が改善
- カテゴリー別(構造改革費用を除くベース)では、イメージセンサーの売上が増加した半導体、売上が増加したテレビなどが損益改善



## 売上高(3,259億円) 前年同期比32.4%の増加

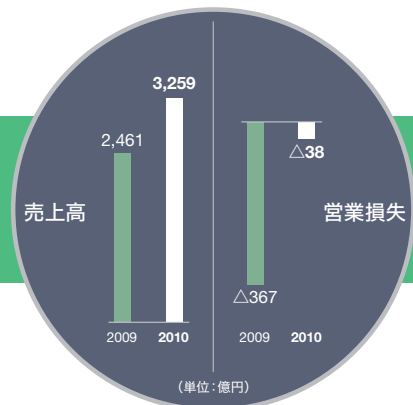
- 売上台数が増加したPCの増収、「プレイステーション 3」(PS3<sup>®</sup>)のハードウェア及びソフトウェアの売上数量が増加したゲーム事業の増収により、分野全体で増収

## ネットワークプロダクツ&サービス分野

ゲーム事業及びPC・その他ネットワークビジネス事業で構成されています。

## 営業損失(38億円) 前年同期比329億円の改善

- 為替の悪影響、売上の増加などともなう販売費・一般管理費の増加があったものの、売上原価率の改善、増収による売上総利益の増加があったことにより、分野全体で営業損益が大幅に改善
- カテゴリー別(構造改革費用を除くベース)では、PS3のハードウェアのコスト改善があったゲーム事業、売上台数が増加したPCなどが損益改善



## 売上高(1,321億円) 前年同期比22.3%の減少

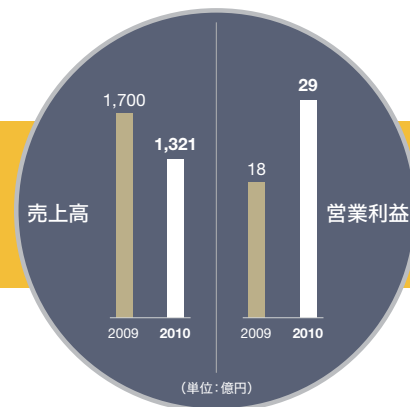
- 劇場興行収入は、「ベスト・キッド」の米国における劇場興行収入が好調だったものの、前年同期には全世界で好調な劇場興行収入を記録した「天使と悪魔」の公開及び米国外における「ターミネーター4」の劇場興行収入の貢献があったため大幅減収
- テレビ番組の収入は、SPEの保有する米国外のテレビネットワークにおける広告収入及び視聴料収入の増加により増収

## 映画分野

米国を拠点とするソニー・ピクチャーズエンタテインメント(SPE)による映画及びテレビ番組などの事業で構成されています。

## 営業利益(29億円) 前年同期比58.2%の増加

- 前年同期に比べ大型の劇場公開作品が少なく広告宣伝費が減少したこと、上記のとおりテレビネットワークの広告収入及び視聴料収入が増加したことにより増益



## 売上高(1,103億円) 前年同期比1.3%の増加

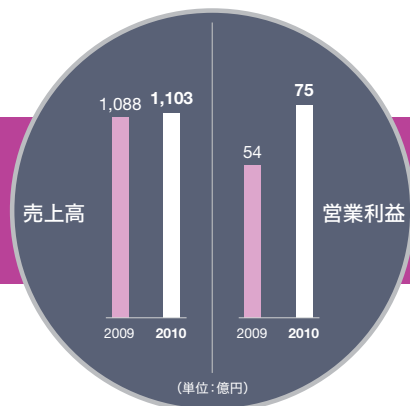
- パッケージメディアの音楽市場の縮小は継続しているものの、当四半期に発売されたいくつかの主要作品の売上が好調だったことにより増収
- 当四半期にヒットした作品：  
AC / DCの「アイアンマン2」(サウンドトラック)、米国の人気テレビ番組「Glee」で使用された楽曲集、西野カナの「to LOVE」、アッシャーの「レイモンド V レイモンド」、クリスティーナ・アギレラの「バイオニック」など

## 音楽分野

米国を拠点とするソニー・ミュージックエンタテインメント及び日本の株ソニー・ミュージックエンタテインメントによる音楽制作事業などで構成されています。

## 営業利益(75億円) 前年同期比39.4%の増加

- 上記のとおりいくつかの作品がヒットしたこと、費用削減施策の効果により、広告宣伝費及び間接費が前年同期に比べ減少したことなどにより増益



## 金融ビジネス収入(1,690億円) 前年同期比25.7%の減少

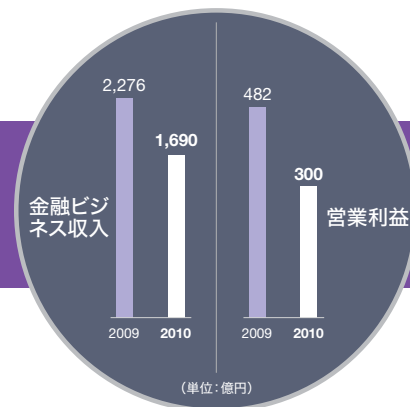
- 主にソニー生命の減収により、分野全体で減収
- ソニー生命の収入は、前年同期に大幅に上昇した日本の株式相場が当四半期は大幅に下落したこととともない特別勘定における運用損益が悪化したこと、前年同期に一般勘定における新株予約権付社債の評価益を計上したことなどにより減収
- ソニー生命の保険料収入は、新契約獲得が順調に伸長し、保有契約高が拡大したことにより増加

## 金融分野

ソニー生命保険(株)(ソニー生命)、ソニー損害保険(株)、ソニー銀行(株)などを傘下におくソニーフィナンシャルホールディングス(株)(SFH)及び(株)ソニーファイナンスインターナショナルによる金融事業で構成されています。

## 営業利益(300億円) 前年同期比37.8%の減少

- 主にソニー生命の減益により、分野全体で減益
- ソニー生命の営業利益は、前年同期の一般勘定における新株予約権付社債の評価益の計上、上記の日本の株式相場の変動にともなう変額保険にかかる繰延保険契約費償却額の増加などにより減少



\*上記のソニー生命の業績は米国会計原則に則って算出されていますので、SFH及びソニー生命が日本の会計原則に則って個別に開示している業績とは異なります。